

Culib News (クリブニュース)

No.48 2006年4月1日 中京大学図書館発行

ことばの散歩－11－

カレンダーのお話し －2－スプリング

図書館長 安村 仁志

Spring has come! いい季節が始まります。春は冬と夏の間の季節として、自然の中にさまざまな新しい動きが見られるときです。ですから、春には「始まり」、「勢い」に関連した意味が込められています（正月に使う新春・初春、わが世の春、青春など）。また、『広辞苑』には、「はる＝春」の項に“草木の芽が「張る」意、また田畑を「墾（は）る」意、気候の「晴る」意からとも”との説明もあります。さらに、漢字の「春」は、“盛んに生える雑草、草”を表す「艸」（草冠となる）と“草の芽が懸命に地上に出ようとしている、或いは出悩む”ようすを示す「屯」、そして「日」が合わさったものです。春は植物だけの季節ではありません。「蠢（うごめく）」という字はもとは“春”と“虫”二つが合わさったもので、虫が出ようとしてどこかでもぞもぞと“うごめく”様子を表しています。「椿（音読ちん）」という木は、その“ずっしりとこもる”の意が込められたもので、幹の下方がずっしりと太い木という意味をもつそうです。一方、「鱒（さわら）」は文字通り春先になると出てきてよく捕れる魚とのことです。こうして、陽気がよくなり、草木も芽を出し、冬眠していた動物が目覚め、昆虫も這いだしてくる（啓蟄＝けいちつ）「春」には、待ち遠しい、期待に膨らむ季節という感じがよく表れています。

ヨーロッパの言語でもよく似た考え方がみられます。まず、「春」を表す単語を見てみますと、グループ化できます。一つはラテン系諸語に見られる「最初の時、最初の季節」です。イタリア語、スペイン語、ポルトガル語の *primavera*、ルーマニア語の *primăvară*、フランス語の *printemps* などです。元のラテン語は *tempus* (time/season) *primum* (first) です。次は「前の」とか「早い」といった意味をあらわす語で、ゲルマン諸語に見られます。ドイツ語の *Frühling* ; *Frühjahr*、デンマーク語の *forår* ; *vår*、スウェーデン語とノルウェー語の *vår* などです。スラヴ語はロシア語の *весна* (*vesna*) に類するものが多く、ウクライナ語、セルビア語はそれと同じですし、ベラルーシ語 *вясна* (*vyasna*)、ポーランド語 *wiosna* です。これらは *r* と *n* の子音交替があって、古代インド語の *vasantas* (spring)、*vasar* (early)、インド・ヨーロッパ基語の形をよく残しているとされるリトアニア語の *vasara* (summer) などとつながっているようです。

これらとは結びつかない英語の *spring* はどうなのでしょう。非常に面白いことに気づかされます。英和辞典を引いてみますと、名詞に「ばね、ぜんまい」、「泉」、「跳躍」そして「春」の意味があります。かなり異なるように見えるいくつかの意味が一つの語にあり、“ばね”と“春”がなぜいっしょの語なのだろうと思ってしまいます。でも、これらの4つの意味には共通性があるのです。spring にこめられ

た意味は、動詞の意味から派生しているのです。springの動詞を調べてみると、「跳ぶ、はねる」、「はじく、はね返る」といった意味があります。これがすべての元といってもいいのでしょうか。「バネ」の意味はすぐ出てきますし、“どこか”から“何か”が「はねる、はじける」ことを想像してみますとほかの意味も浮かんできます。“土”の中から“水”が「はねる／はじける」ように出てくると「泉」になります。じゃあ、「春」はどうなのでしょう。これは植物が「生える」、「芽を出す」季節ということですが、先の日本語の「春」の場合と同じ発想があるように見えます。“土”の中から、或いは“木の枝先”から“芽”が、まずはもぞもぞして、時満ちて“ぴょん”と跳ねるようにして顔を出すのです。

springにも「初めの段階、初期」という意味があります。これはどう考えればいいのでしょうか。ヨーロッパ諸語の今日の12の月名の元になった古代ローマの暦をみてみます。紀元前8世紀の半ばに採用された「ロムルス暦」ですが、これは農耕暦であったことから3月に始まり12月で終わっていました。名称と日数は、Martius (31)、Aprilis (30)、Māius (31)、Jūnius (30)、Quīntilis (31)、Sextilis (30)、September (30)、Octōber (31)、November (30)、December (30)と10の月が定められ、このあと日付のない日が61日間ほど続いたといわれています。一年が春の3月から始まっていたということですが、7月から12月の名称からは数字の5から10が浮かんできます。7月以降は3月から数えて「5番目」-「10番目」となります。後の改暦で1月、2月の名称が加えられ、7月と8月が皇帝ユリウス(カエサル)、アウグストゥスにちなんだものにされ、今日の原型が確定されました。春と一年の初めが結びつきました。

次に、ヨーロッパはことばの上では長く二季制であったといわれています。英語のwinterはwhiteに関係するという説もあり、その場合一年は「雪に覆われた白い」季節と“そうではない”季節の二つだったということです。“a man of seventy winters (70歳の男)”という表現があるように、厳しい冬を乗り越えることが「年」に結び付けられたのでしょうか。「春」は待ち遠しいものでしたが、季節名としてのspringの登場はせいぜい14世紀末あたりとされています。

キリスト教世界では春に最大の祝いである「復活祭」があります。太陰暦のユダヤ教の祭り「過越際(ベサハ)」の時期にキリストの十字架上での死と三日目の日曜日における復活があったことから、「春分の日あとの最初の満月のあとの最初の日曜日」と定められています。西方では3月末から4月中旬あたりで、季節は春です。この復活祭を表す英語は、また他のヨーロッパ諸語とは異なります(他は大體先の“過越際”を表すギリシア語のパスカ系)。Easterですが、これはゲルマン人の春の女神“Eostre”の名、あるいは彼らが用いた春の月名“Eostremonat”に由来しているといわれます。英語とドイツ語Osternでは復活祭と春が結びつきます。

おしまいに一言。この春入学してきた新入生の皆さんは期待を胸に、どのような学生生活を送っているかと考えていることでしょう。ほかでも人がなにかと「ハリキル」時期です。漢字で書くと「張り切る」となり、上述の春につながる「はる(張る)」に関係します。せっかくハリキルときに無粋なことですが、「はる・ばる・ぱる／張る」を含む語にはあまりいい言葉はないのです。「言い張る」、「威張る」、「形式張る」、「欲張る」、「鯪張る」、「突っ張る」、「でしゃばる」、「見栄を張る」、「頑張る」、「気張る」と続き、英語でも「ライバル」が浮かんできます。そしてあまりハリキルと「張って」「切れ」てしまいますから、肩の力を抜いて(漢字は異なりますが)「ねばり」強く、地道に歩んでまいりましょう。そうすれば厳しい世の中に「サバイバル」でき、今は少々調子が悪くても「リバイバル」の喜びを味わうことができるでしょう。

『金庸小説への招待』 ～図書館員 Y のお薦め本紹介～

金庸を知っていますか？ 武俠小説の第一人者で、ウォン・カーウァイ監督映画「楽園の瑕」の原作者でもあります。とにかく面白い！という噂は聞いており、いつか読まねばなるまいと思っていました。多作で長編ものが多いため、二の足を踏みましたが、とうとう「秘曲笑傲江湖」のシリーズを読みました。感想は、面白い！の3乗。「何故もっと早く読まなかったんだろう。徳間書店よ、翻訳してくれてありがとう」とさえ、思いました。その魅力は一言では語り尽くせませんが、あえて言わせていただくと、痛快無比の面白さ。魅力的なキャラクターがおりなす、縦横無尽・怒濤のストーリー展開。愛と勇気と義の物語。文学的魅力だけでなく、中国の歴史や民間伝承を下地としているため、歴史的な面からみても興味深い。くどい説明になりましたが、百聞は一読に如かずで、中京大生にぜひ読んでいただきたいと思います。

中華圏では絶大な人気を誇る金庸ですが、残念ながら、日本ではあまり広くは知られていないようです（熱烈なファンはいるようですが）。そこで、軽くプロフィールを紹介すると、金庸は香港の新聞「明報」の創刊者で、新聞に連載小説と社説を執筆していました。舌鋒鋭い論客で知られ、それ故に命を狙われることもあったそうです。現在は浙江大学の教授の職に就いており、しばらくは筆を折っていましたが、近年、作品の改作を開始したようです。中国返還後の香港のあり方を決める「香港基本法」の起草委員も務めたほどの知識人ですが、1989年に天安門事件が発生すると、金庸は抗議して即座に起草委員を辞し、世間を驚かせました。1995年、現代中国の代表的な作家を選んだ「二十世紀中国文学大師文庫」で魯迅、沈從文、巴金に続いて4位におかれしました。何事も数字（＝序列）を大事にする中国。このことから、金庸が単なる一時の人気小説家ではないことが伺えます。

上記を考えると、華々しい経歴のどんなに偉い人だろうと想像しますが、ご本人はいたって気さくな方です。実は私、学生時代に金庸氏本人との出会いを経験しており、そのときの印象です。大学の、金庸氏歓迎のレセプションに参加をしたのですが、今思えばもったいないことに、金庸氏がどんなことを話されたかは忘れてしまいました。人柄はよく覚えています。北野大氏（ビートたけしのお兄さん）似で、笑顔のやさしい、謙虚な方という印象を抱きました。有名な方なのに、全く偉そうな様子はなく、学生に対してもにこにこ誠実に接する姿を見て、「一流の人は謙虚なんだ」と思ったのを覚えています。そんな温和な、失礼ながら一見地味に見える人がこんなに刺激的な小説を書くなんて、そのギャップが面白いとも思いましたが、よく考えると金庸氏はペンによる戦いを続けてきた硬骨の人で、見た目通りの人であるはずがなく、小説にもその世界観が反映されていると納得しました。

現在では、日本でも全15作品が翻訳・出版されており、映像化されているものも多いです。金庸が紡ぐ魅力溢れる任侠・剣戟の世界を一度のぞいてみませんか？

☆中京大学図書館所蔵の金庸本☆

- ・『秘曲笑傲江湖』全7巻 LSC 923.7/Ki 41
- ・『書剣恩仇録』全4巻 LSC 923.7/Ki 41
- ・『歴史と文学の境界「金庸」の武俠小説をめぐって』名古屋閉架書庫 904/Ka 44

新着図書セレクト



良書をはじめて読むときには、新しい友を得たようである。
前に精読した書物を読みなおす時には、旧友に会うのと似ている。

by ゴールドスミス

* 12～2月の新着図書の中から、お薦めの本をご紹介します *



『**本屋さんの仕事**』(江口宏志 [ほか] 著、平凡社)

請求記号：024/H 85, 所蔵：LSC、TL

人気の書店は、どのように誕生し、お客さんの支持を集めているのか。
独自のノウハウ、哲学を徹底的に語った「本屋さんの仕事」講座。



『**意味がなければスイングはない**』(村上春樹著・文芸春秋)

請求記号：760.4/Mu 43, 所蔵：LSC

待望の音楽エッセイ！シューベルトからスタン・ゲッツ、ブルース・スプリングスティーン、スガシカオまで、音楽と作家のファンキーだけど奥の深い10篇。

請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
019/H 84	『作家の読書道』(Web本の雑誌編・本の雑誌社) 気になる作家が語る読書遍歴よもやま話。	LSC
022.8/O 68	『製本探索』(大貫伸樹著・印刷学会出版部)	NL
080/C 44/575	『使えるレファ本150選』(日垣隆著・筑摩書房)	LSC
080/C 44/578	『「かわいい」論』(四方田犬彦著・筑摩書房)	LSC
141.5/Te 35	『心と脳の正体に迫る：成長・進化する意識、遍在する知性』 (天外伺朗, 瀬名秀明著・PHP研究所)	TL
141.6/L 53	『感情力：自分をコントロールできない人できない人』 (フランソワ・ルロール, クリストフ・アンドレ著・紀伊國屋書店)	TL
209.75/Y 31	『世界を揺るがした10年：ベルリンの壁崩壊から9・11まで』 (山本武信著・晃洋書房)	TL
210.1/Ka 93	『英語で読む日本の歴史』(河合敦著・ナツメ社)	TL
210.6/Ta 13/1 210.6/Ta 13/2	『天皇と東大：大日本帝国の生と死』(立花隆著・文芸春秋) 万卷の資料を歩躰し歴史を発掘した、著者畢生の大作！	LSC

請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
302.1/O 53	『日本及び日本人』（大越明彦著・鳥影社）	TL
316.1/Ma 35	『個人情報保護はこう変わる：逆発想の情報セキュリティ』（牧野二郎著・岩波書店）	LSC TL
327.62/H 22	『自白の研究：取調べる者と取調べられる者の心的構図』（浜田寿美男著・北大路書房）	LL
370.4/Mi 49	『ニート・フリーターと学力』（佐藤洋作、平塚真樹編著・明石書店）	LSC TL
490.36/Y 48	『人間の許容限界事典』（山崎昌廣、坂本和義、関邦博編集・朝倉書店）	TL
491.371/Ts 65	『フリーズする脳：思考が止まる、言葉に詰まる』（築山節著・日本放送出版協会）	TL
547.48/Ta 53	『ウケるブログ：Webで文章を“読ませる”ための100のコツ』（高瀬賢一著・技術評論社）	TL
568.09/Ma 23	『ピーク・オイル：石油争乱と21世紀経済の行方』（リンダ・マクウェイク著・作品社）	TL
674.21/F 71	『時代を映したキャッチフレーズ事典』（深川英雄、相沢秀一、伊藤徳三編著・電通）	TL
699.067/L 17	『アルジャジーラとはどういうテレビ局か』（オルファ・ラムルム著・平凡社）	TL
727.087/Sa 85	『イメージの読み書き』（佐藤雅彦企画・構成・美術出版社）	LSC
801.6/W 62	『論理的に書くためのルールブック』（アンソニー・ウェストン著・PHP研究所）	TL
801.9/Ta 67	『人は見た目が9割』（竹内一郎著・新潮社）	LSC
814.4/B 39	『左見右見四字熟語』（別役実著・大修館書店） 世にある「四字熟語」の数々をためつすがめつし、斬新で大胆な当世風解釈を与える。「痛快無比」のエッセイ集。	TL
908.8/H 29	『ほめことばの事典』（榛谷泰明編・白水社） 古今東西の小説、詩、戯曲などから、いろいろな場面で使われるほめことばを収録した事典。	TL
910.23/Se 93	『おとなの教養古典の女たち』（瀬戸内寂聴著・海竜社）	LSC
914.6/Ma 59	『おっとりと論じよう：丸谷オ一対談集』（丸谷オ一著・文芸春秋） 日本の美しさについて、文学、歴史、言葉について発見と刺激、そして味わいに満ちた対話集。	LSC

※所蔵の【NL】は名古屋図書館、【LSC】はライブラリー・サービス・センター
【LL】は法学文献センター、【TL】は豊田図書館です

文化に触れて

学部生 上羽 松樟

先日徳川美術館に行く機会があり、ついでに蓬左文庫の展示室も覗いた。徳川美術館、蓬左文庫とも毎回展示物が変わるので楽しみにしている。蓬左文庫では正確な名を失念してしまったが「姫君のたしなみ」といった作品が展示されていた。昔の姫君の生活を察するには、日々の無聊（ぶりょう）を託（かこ）つため何か慰みをみつけなければならない。それは例えば百人一首や伊勢物語などの歌留多であったり、室内用に拵（こしら）えた小さい弓（「雀小弓」と紹介されていた）の遊びであったり、また書写や、本であったりと実にさまざまであり、大変に教養深く文化的な物に囲まれて過ごしていたのだと驚いた。

その中でも興味深かったのは歌留多である。歌留多と言えはすぐに百人一首が思いつく。しかし他に何か思い浮かべられるかという小首をかしげてしまう。百人一首ばかりだと思っていたのである。我ながら浅はかさに苦笑する。考えてみれば歌留多の遊び方というのは、決まった札を取りあい競うものである。歌留多にも様々な種類があり、百人一首の場合は五・七・五・七・七の三十一文字に詠まれた和歌を取り合う。詠み手が上の句を詠み、その下の句を素早く連想して取る。三十一文字の和歌の場合、百人一首でなくとも別にかまわない。そういうものであるから和歌をいくつか集めれば遊びは成り立つ。それなのに歌留多は百人一首だと盲目的に断定してしまうのはいささか早計だった。代表格は百人一首であろうからそれはそれでよいのかもしれないが、それだけと決めつけてしまうのが間違いなのであった。

家庭に百人一首が置いてあったのはいつの時代だろうか。今では置いてある家庭は数少ない。知人と話していてもあまり置いてある家がないからそう思う。和歌は日本文化の重要な導きであり、常に人々の心をあらわし人々の身近にあった。さて最近、その和歌を見直す動きが出てきたと聞く。とても喜ばしいことである。

和歌をよむにしても本をよむにしても、昔は手書きのものをみていたのである。活字ではないからよむのに一苦労する。しかし個性が出てくるから、見比べてみるとあきない。活字では味わえないものがある。今では出版社のおかげで昔のものが活字となって出版され、読めるものがたくさんあるのでありがたいが、それでもまだ活字になっていないものもあるだろう。そういうものが読めるというのは嬉しく、またそうなりたい。昔の人が日常に触れていた様々なものを現代では読めないというのは悲しい。能書家の筆跡を手本に書の練習をすれば、上達するとともに書かれたものに深く接することができる。

徳川美術館には、年に数回展示物が変わる度に行くことにしている。中京大学の学生なら学生証を見せると無料で入れる。本を読むばかりが勉強ではない。どこかに出かけること、足でかせぐのも勉強である。

ベストリーダー (2005年9月～2006年1月)

図書館で多く貸し出された資料を紹介します。

【名古屋図書館】 閉架書庫は迷路のようで、本好きにとっては、刺激のかつ魅力的な場所です。書庫利用願いの提出で、入庫できます。

書名	著者名	請求記号
認知心理学	U. ナイサー著	141.5/N62
イギリス近代小説の形成	岡本成蹊著	933/O42
源氏物語の探究	源氏物語探究会編	913.36/G34
応用心理尺度構成法	西里静彦著	142.2/N86
自尊心の発達と認知行動療法	アリス・W. P [ほか] 著	146.8/P81

【豊田図書館】 明るく使いやすい近代的な図書館です。開架、閉架書庫の両方があります。閉架書庫への入庫は、書庫利用願いの提出が必要です。

書名	著者名	請求記号
ハリー・ポッターと炎のゴブレット	J. K. ローリング著	933.7/R78
スポーツ障害別ストレッチング	堀居昭著	780.19/H87
希望のノート	二神能基著	367.68/F97
土の中の子供	中村文則著	913.6/N37
リアル鬼ごっこ	山田悠介著	913.6/Y19

【LSC】 英語教材、基礎的な学習図書、小説が充実しています。新着雑誌や新書も豊富です。

書名	著者名	請求記号
Two Lives	Helen Naylor	837.7/C14/T
Just good friends	Penny Hancock	837.7/C14/J
A Christmas carol 2nd ed.	Charles Dickens	837.7/O93/C
※上記3タイトルの他にも『Oxford Bookworms library』『Cambridge English readers』等の英語教材シリーズの利用が多数みられました。		
万葉集全注	伊藤博 [ほか] 著	911.124/Ma48
優しい音楽	瀬尾まいこ著	913.6/Se76
親指さがし	山田悠介著	913.6/Y19
夜のピクニック	恩田陸著	913.6/O65

【法学文献センター】 法学部棟に設置された、政治・法律専門の図書館です。

書名	著者名	請求記号
憲法判例	戸松秀忠、初宿正典著	323.14/To49
憲法	芦部信喜著	323.14/A92
裁判員制度	丸田隆著	327.67/Ma58
弁論主義	伊東乾著	327.214/I89

図書館カレンダー

4

日	月	火	水	木	金	土
						①
2	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

5

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	⑳	㉑
30	31					

8

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
10	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
17	18	⑰	⑱	⑳	㉑	㉒
24	25	26	27	28	29	30

通常開館時間

	平日	土曜日
名古屋図書館	9:00～19:00	9:00～12:30
豊田図書館	9:00～20:00	9:00～17:00
ライブラリーサービスセンター	9:00～22:00	9:00～17:00
法学文献センター	9:00～19:00	9:00～12:30

無印は通常開館

■ は休館日

□ の開館時間 (平日 9:00～16:00)

○ の開館時間 (平日 9:00～17:00 土曜日 9:00～12:30)

編集後記

年度が替わり、クリブニュースも2色刷、A4版として発刊する運びとなりました。図書館のより一層の充実、皆様の学習・研究支援にと館員一同努力していく所存です。ご意見、ご希望などございましたらお寄せ下さい。また、ご投稿もお待ちしております。

発行 中京大学図書館

〒466-8666

名古屋市昭和区八事本町101-2

TEL (052)-835-7157

<http://www.chukyo-u.ac.jp/tosho/>

発行所 株式会社 荒川印刷